

## 報告事項

(1) 平成30年度事業報告の件

法人運営管理

I 会議開催の状況

| 会議内容    | 開催日、場所                       | 審議内容  |
|---------|------------------------------|---|
| 第68回理事会 | 平成30年5月24日（木）<br>松江エクセルホテル東急 | 第1号議案 平成29年度事業報告及び収支決算承認の件<br>第2号議案 役員の新補充選任の件<br>第3号議案 第31回通常総会付議事項の件<br>報告事項 業務執行状況報告                       |
| 第69回理事会 | 平成30年6月27日（木）<br>松江エクセルホテル東急 | 協議事項 裁判について   |
| 第31回総会  | 平成30年6月27日（水）<br>松江エクセルホテル東急 | 第1号議案 平成29年度決算承認の件<br>第2号議案 役員の新補充選任の件<br>報告事項 平成29年度事業報告の件<br>平成30年度事業計画及び収支予算の件<br>平成30年度会費の件<br>基本財産運用方法の件 |
| 第70回理事会 | 平成30年11月6日（火）<br>松江エクセルホテル東急 | 報告事項 業務執行状況報告   |
| 第71回理事会 | 平成31年2月7日（木）<br>松江エクセルホテル東急  | 第1号議案 平成31年度事業計画（案）及び収支予算（案）承認の件<br>報告事項 水産政策の改革について  |

II 公益社団法人島根県水産振興協会地域水産振興部会総会等への出席

| 開催月日       | 会議名             |
|------------|-----------------|
| 平成30年4月19日 | 隠岐島前地域水産振興部会幹事会 |
| 平成30年5月16日 | 出雲西部地域水産振興部会総会  |
| 平成30年5月22日 | 隠岐道後地域水産振興部会総会  |
| 平成30年5月24日 | 石見東部地域水産振興部会総会  |
| 平成30年5月31日 | 石見西部地域水産振興部会総会  |
| 平成30年6月22日 | 隠岐島前地域水産振興部会総会  |
| 平成30年7月4日  | 出雲東部地域水産振興部会総会  |

### III 関係会議の開催

| 月日・場所                | 会議名                        | 備考  |
|----------------------|----------------------------|---|
| 平成30年12月5日<br>島前集合庁舎 | 平成30年度隠岐地区資源管理型漁業（栽培漁業）研修会 | ・講演「藻場の再生～磯焼けと藻場造成について～」及び発表4題  |
| 平成31年3月12日<br>ホテル白鳥  | 水産振興部会担当者会議                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度事業報告、決算(案)について</li> <li>・来年度事業計画、予算(案)について</li> <li>・種苗生産計画について</li> <li>・中間育成・輸送・放流計画について</li> <li>・部会の意見要望について</li> <li>・今後の栽培漁業について</li> <li>・その他</li> <li>①部会からの報告について</li> <li>②助成事業について</li> </ul> |

### IV 外部会議等への出席・参加

| 開催月日        | 会議名                     |
|-------------|-------------------------|
| 平成30年 6月15日 | 島根県漁業信用基金協会第65回通常総会     |
| 平成30年 6月29日 | 島根県水難救済会第19回総会          |
| 平成30年 6月30日 | 漁業協同組合JFしまね第13回通常総代会    |
| 平成30年 9月18日 | 西日本種苗生産機関連絡協議会（貝類分科会）   |
| 平成30年 9月27日 | 西日本種苗生産機関連絡協議会（魚類分科会）   |
| 平成30年10月 3日 | 11府県水産公益法人担当者会議         |
| 平成30年10月28日 | 全国豊かな海づくり大会             |
| 平成31年 1月29日 | 西日本種苗生産機関連絡協議会 場・所長連絡会議 |
| 平成31年 2月19日 | 海域栽培漁業推進協議会全国連絡会議       |
| 平成31年 3月13日 | イワガキ養殖推進会議              |

### V 登記に関する事項

| 年月日        | 登記事項                       | 登記先     |
|------------|----------------------------|---------|
| 平成30年8月10日 | 理事（1名）の変更登記<br>細馬 康二 退任    | 松江地方法務局 |
|            | 理事（2名）の登記<br>楫野 弘和、三浦 順の就任 |         |

### VI 事業及び経理上の重要事項

なし

### VII 部門別の事業活動概況

## 公益目的事業

### 【松江本部】

#### 1 沿岸漁場整備開発促進事業

##### (1) 受託事業

###### ①水産環境整備事業漁場利用状況調査業務（県漁港漁場整備課）

県下各所の一本釣漁業者に人工漁礁を記載した調査野帳を配付し、各人工漁礁の利用回数、漁獲される魚種、漁獲量等を野帳に記録してもらい、その野帳を協会で回収し記録をとりまとめ、人工漁礁の利用状況の調査を行った。

###### ②種苗放流による資源造成支援事業

（公社）全国豊かな海づくり推進協会を事務局とした日本海中西部海域栽培漁業推進協議会で実施）

日本海中西部海域（石川、福井、京都、兵庫、鳥取、島根、山口県が対象）の関係県が連携して、ヒラメの自然界での生態を把握し、放流種苗の生残率の向上と、効率的な資源維持増大を図る目的で、放流魚の一部で標識放流を行った。

##### (2) 助成事業

###### ①海難遺児に対する育英資金の給付

平成30年度は給付実績なし。

#### 【育英資金給付額】

| 対象     | 月額     | 対象  | 月額      |
|--------|--------|-----|---------|
| 幼児・小学生 | 4,000円 | 高校生 | 7,000円  |
| 中学生    | 5,000円 | 大学生 | 11,000円 |

###### ②その他の助成

水産振興助成事業実施規程に基づき助成対象事業の公募を行い、選考委員会において審査した結果、下記の団体の事業を対象として助成した。

#### 【助成事業の実績】

| 助成団体            | 事業名                        | 助成金額     |
|-----------------|----------------------------|----------|
| 島根県内水面漁業協同組合連合会 | 内水面漁業環境保全啓発活動事業            | 185,000円 |
| 特定非営利活動法人隠岐しおさい | しおさい感幸交流で紡ぐ、豊かなしまねの里海未来塾事業 | 150,880円 |

#### 2 中間育成・放流事業

##### (1) 中間育成・放流

平成27年4月に策定された島根県第7次栽培漁業基本計画に基づき、県下6地域の水産振興部会と連携しながら、ヒラメ・マダイ稚魚の中間育成および放流を実施し、積極的に資源の回復、漁業生産の増大を図った。

事業費は、全国海づくり推進協会補助金、県単強い水産業づくり交付金、地元負担金、栽培漁業推進ファンドの運用益により放流事業を実施しており、補助金や運用益の減少な

どにより厳しい財政状況ではあるが、中間育成施設の集約化など事業の効率化を図りながら実施した。

①ヒラメ中間育成・放流

平成30年4月に45mmのヒラメ37万尾を浜田市と松江市の中間育成施設へ搬入・育成し、県内18か所（出雲東部6か所、出雲西部3か所、石見東部5か所、石見西部4か所）において放流した。

【ヒラメの中間育成・放流結果】

| 中間育成    |            | 放流      |                     |         | 歩留り   |
|---------|------------|---------|---------------------|---------|-------|
| 搬入時期    | 数量・サイズ     | 放流時期    | 数量・サイズ              | 場所      |       |
| 平成30年4月 | 370千尾、45mm | 平成30年6月 | 356千尾、<br>100～133mm | 出雲・石見地区 | 96.2% |

②マダイ中間育成・放流

平成30年7月に45mmのマダイ65万尾を、西ノ島町と松江市の中間育成施設へ搬入・育成し、県内20か所（隠岐島前8か所、隠岐島後7か所、出雲東部5か所）において放流した。

【マダイの中間育成・放流結果】

| 中間育成    |            | 放流        |                    |         | 歩留り   |
|---------|------------|-----------|--------------------|---------|-------|
| 搬入時期    | 数量・サイズ     | 放流時期      | 数量・サイズ             | 場所      |       |
| 平成30年7月 | 650千尾、45mm | 平成30年8～9月 | 615千尾、<br>80～110mm | 隠岐・松江地区 | 94.6% |

(2) 放流効果調査（集計期間 平成30年4月1日から平成31年3月31日まで）

マダイ、ヒラメの放流効果を調査するため、隠岐の島町・西ノ島町・大田市・浜田市の各市場において、ヒラメ、マダイの放流効果調査を61回実施した。調査内容は、市場に水揚げされたヒラメ・マダイの全長測定とヒラメは無眼側黒化魚の識別、マダイは鼻孔連結の有無を確認し天然魚と放流魚を区別し、黒化率などを補正して混獲率を算出した。

【市場調査結果】

| 調査場所    | 調査対象          |     | 調査内容    |         |          | 放流魚混獲率 |        |
|---------|---------------|-----|---------|---------|----------|--------|--------|
|         | 漁法            | 魚種  | 調査回数(回) | 調査尾数(尾) | うち標識魚(尾) | 採捕数(%) | 補正後(%) |
| 隠岐の島町西郷 | 定置網           | マダイ | 6       | 28      | 3        | 10.7   | 16.1   |
| 西ノ島町浦郷  | 定置網・刺網<br>一本釣 | マダイ | 25      | 1,015   | 61       | 6.0    | 16.4   |
| 大田市和江   | 小型底びき網        | ヒラメ | 5       | 555     | 19       | 3.4    | 4.5    |
| 浜田市原井町  | 沖合底びき網        | ヒラメ | 25      | 1,223   | 29       | 2.4    | 2.6    |

(3) 栽培漁業のPR活動

漁業関係者が、地先海域の資源を管理しながら増やしていくために積極的な活動を行っていることや、栽培漁業の重要性を一般の方々に広く知ってもらえるよう、県内各地で小学生や幼稚・保育園児等を対象に稚魚の体験放流事業を16回開催した。

また、報道機関に情報提供を行い、テレビ、ラジオ、新聞等を通じて周知・PRに努めた。

【振興部会ヒラメ・マダイ体験放流の状況 (開催回数計16回)】

| 魚種             | 部会名  | 開催日                 | 放流場所                                    | 参加者                                    |
|----------------|------|---------------------|---|--|
| ヒラメ            | 出雲東部 | 6月26日               | 松江市 恵曇漁港                                | 佐太小学校5年生 15名                           |
|                |      | 6月28日               | 松江市 恵曇漁港                                | 鹿島東小学校5年生 16名                          |
|                |      | 7月2日                | 松江市 恵曇漁港                                | 島根小学校5年生 20名                           |
|                |      | 7月12日               | 松江市 恵曇漁港                                | 恵曇小学校5年生 12名                           |
|                | 出雲西部 | 6月18日               | 出雲市 大社漁港                                | 大社小学校5年生 51名                           |
|                | 石見東部 | 6月20日               | 大田市 和江漁港                                | 静間小学校5年生 8名                            |
|                |      |                     | 大田市 鳥井海岸                                | 鳥井小学校全校生徒 43名                          |
|                | 石見西部 | 6月12日               | 浜田市 浜田漁港                                | 三隅小学校5年生 40名<br>岡見小学校5,6年生 12名<br>浜田市長 |
|                |      | 6月13日               | 江津市 江津港                                 | 津宮小学校5年生 52名<br>市議会議員 8名               |
|                |      | 6月21日               | 益田市 高津海岸                                | 緑ヶ丘保育所 19名                             |
| 計              | 9回   |                     | 297名                                    |  |
| マダイ            | 隠岐島前 | 9月3日                | 西ノ島町 美田湾                                | 西ノ島小学校1,5年生 39名                        |
|                |      | 9月5日                | 知夫村 来居港                                 | 知夫小学校5,6年生 7名                          |
|                |      | 9月13日               | 海士町 諏訪湾                                 | 海士小学校2年生 5名<br>福井小学校1,2,5年生 28名        |
|                | 隠岐島後 | 9月7日                | 隠岐の島町 西郷港                               | 中条小学校1,2,3年生 31名                       |
|                | 出雲東部 | 8月10日               | 松江市 沖泊漁港                                | マリン保育所 15名<br>野波保育所 6名                 |
| 9月10日<br>9月12日 |      | 松江市 御津漁港<br>松江市 七類港 | 御津保育所 22名<br>美保関西保育所 16名<br>美保関東保育所 11名 |  |
| 計              | 7回   |                     | 180名                                    |  |
| 合計             |      | 16回                 |   | 477名                                   |

### 3 種苗供給事業

会員の要望に基づき、栽培漁業の推進及び養殖漁業に必要な放流用・養殖用種苗の斡旋・配布を行った。

【種苗供給事業実績】

| 種苗名   | 規 格               | 供給数       |
|-------|-------------------|-----------|
| アワビ   | 平均殻長 3 cm         | 108,800 個 |
| トコブシ  | 殻長 1.5~2 cm       | 14,000 個  |
| イワガキ  | 採苗器 1 枚に 10 個以上付着 | 159,200 枚 |
| キジハタ  | 平均全長 10 cm        | 24,200 尾  |
| オニオコゼ | 平均全長 5 cm         | 6,000 尾   |
| カサゴ   | 平均全長 10 cm        | 26,500 尾  |
| ウナギ   | 全長 15~20 cm       | 127.8 kg  |
| アカウニ  | 平均殻径 2 cm         | 36,000 個  |
| コンブ   | 1 枠 50m           | 3 枠       |
| 鳴門ワカメ | 1 枠 17m           | 220 枠     |

### 【栽培漁業センター】

#### 4 栽培漁業センター事業（県受託事業）

##### (1) 業務の概要

- ①作り育てる漁業（栽培漁業）を推進するための健苗性の高い放流用種苗及び養殖用種苗を生産し、生産した種苗の出荷・引き渡しを速やかに実施した。
- ②県内で放流要望が強いクロアワビ種苗の中間育成試験及び養殖用種苗として要望が強いヒオウギガイ種苗の生産試験を実施した。
- ③放流用種苗の中間育成技術指導を行い、健苗性、疾病の有無、成長状況についての確認や技術指導を行った。
- ④種苗生産施設や機器、調査船、公用車の適切な維持管理を行とともに、島根県の行う水質環境等の調査に協力した。

【種苗生産計画（受託数量）】

| 区 分   | 種 苗 名 | 規 格                      | 計画数量   | 生産時期        |
|-------|-------|--------------------------|--------|-------------|
| 放 流 用 | マダイ   | 平均全長 45 mm               | 650 千尾 | 5~7 月       |
|       | ヒラメ   | 平均全長 45 mm               | 370 千尾 | 4~5 月、1~3 月 |
| 養 殖 用 | イワガキ  | コレクター 1 枚当たり<br>10 個以上付着 | 11 万枚  | 5~12 月      |

【主な業務日程】

| 研修・視察・会議名                     | 期 間           | 場 所                   |
|-------------------------------|---------------|-----------------------|
| ヒラメ種苗出荷                       | 4月9日～4月26日    | 浜田市・松江市               |
| マダイ種苗生産開始                     | 4月20日         | 栽培漁業センター              |
| イワガキ種苗生産開始                    | 5月29日         | 同                     |
| ヒラメ中間育成場視察                    | 5月30日～5月31日   | 浜田市、松江市               |
| クロアワビ種苗中間育成試験開始               | 6月8日          | 栽培漁業センター              |
| ヒオウギガイ種苗生産試験開始                | 6月28日         | 同                     |
| 鳥取県栽培漁業センター及び湯梨浜振興合同会社視察      | 7月10日         | 鳥取県                   |
| マダイ種苗出荷                       | 7月10日～7月22日   | 西ノ島町・松江市              |
| 西日本種苗生産機関連絡協議会魚類分科会           | 9月27日～9月28日   | 和歌山県                  |
| 日本海栽培漁業センター所長連絡会議             | 10月23日        | 秋田県                   |
| 日本海種苗生産研究会                    | 10月23日～10月24日 | 秋田県                   |
| 隠岐地区資源管理型漁業（栽培漁業）研修会          | 12月5日         | 西ノ島町                  |
| ヒラメ種苗生産開始                     | 1月12日         | 栽培漁業センター<br>平成31年度放流分 |
| 瀬戸内海ブロック水産業関係研究開発推進会議 キジハタ分科会 | 1月28日～1月29日   | 大阪府                   |
| 隠岐のイワガキブランド化推進協議会             | 1月28日         | 西ノ島町                  |
| 水産振興部会担当者会議                   | 3月12日         | 松江市                   |
| イワガキ養殖推進会議                    | 3月13日         | 松江市                   |

(2) 放流・養殖用種苗の生産に関する業務及び出荷業務

①ヒラメ種苗（受託内容 平均全長：45mm 尾数：370千尾 生産）

目標

ヒラメ無眼側黒化の出現を抑え、大きさの大小差が少ない健苗性の高い種苗の生産を目標とした。

結果

平成30年1月に種苗生産を開始した。黒化率対策として、飼育施設の窓を暗幕で覆いやや暗い状態で飼育を行った。また、着底前に5000尾/t程度の密度になるように分槽を行い、同時に水槽の底掃除を行った。

出荷前検査としてシュードモナス症とクドア症の検査を2回行い（県水産技術センター内水面浅海部に依頼、PCR法を用い検査）、また無眼側黒化の出現割合の確認を行った。



出荷前検査の結果、シュードモナス症、クドア症ともに陰性であった。無眼側黒化検査では正常魚が99.2～99.3%確認された。前年度生産と比較し、正常魚の割合が高くなった（前年度正常魚割合89～95%）。無眼側黒化の出現を抑え、健苗性の高い種苗が出荷できたと考えられる。

島根県職員による4回の検査を受けたのち引き渡しを終了した。

【出荷種苗尾数】

| 出荷先  | 石見西部部会<br>(浜田市) | 石見西部部会<br>(浜田市) | 石見西部部会<br>(浜田市) | 出雲東部部会<br>(松江市) | 合計       |
|------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|----------|
| 出荷月日 | 4月9日            | 4月12日           | 4月16日           | 4月26日           |          |
| 出荷尾数 | 105,000尾        | 110,000尾        | 100,000尾        | 55,000尾         | 370,000尾 |

【シュードモナス・クドア検査結果】

| 検査日   | No1水槽 | No2水槽 |
|-------|-------|-------|
| 4月1日  | 陰性    | 陰性    |
| 4月23日 | 陰性    | 陰性    |

【無眼側黒化の出現割合】

| 飼育水槽 | 正常魚   | 黒化軽度 | 黒化中度 | 黒化重度 |
|------|-------|------|------|------|
| No5  | 99.3% | 0.7% | 0%   | 0%   |
| No6  | 99.2% | 0.8% | 0%   | 0%   |
| No7  | 99.2% | 0.8% | 0%   | 0%   |

②マダイ種苗（受託内容：平均全長：4.5mm 尾数：650千尾 生産）

目標

奇形魚の出現を抑え、大きさの大小差が少ない健苗性も高い種苗の生産を目標とし、平成28・29年度に発生した大量斃死等の事例が発生しないよう留意し生産を行った。

結果

平成30年4月下旬より生産を開始した。これは早期に種苗生産を開始した方が、斃死等は発生しにくいとの情報を得た為である。

早期に種苗生産を始めた水槽は、大量斃死等が発生せず、特に奇形等が見られる個体も確認できず、健苗性の高い種苗が出来た。

島根県職員による5回の検査を受けた後引き渡しを終了した。

【出荷種苗尾数】

| 出荷先  | 隠岐島前部会   | 出雲東部部会   | 合計       |
|------|----------|----------|----------|
| 出荷月日 | 7月10～18日 | 7月16、22日 |          |
| 出荷尾数 | 550,000尾 | 100,000尾 | 650,000尾 |

③イワガキ種苗（受託内容 コレクター1枚当たり種苗10個以上付着  
コレクター枚数110千枚 生産）

### 目標

イワガキ種苗の要望数は近年増加傾向にあり、要望に応えるため浮遊幼生期の歩留まりの向上などにより安定的な生産を図ることを目標として生産を行った。

### 結果

平成30年5月下旬より種苗生産を開始し、9月末までに6回次の生産を実施した。

2回次～4回次では浮遊幼生の斃死などが発生し生産の不調が生じたが、換水や餌料の改善などの対策を講じ、5回次以降の生産は順調に生産した。今年度の出荷枚数は追加要望を含めて152,900枚となり、12月末までに要望があった県内30事業者に全量を出荷した。

#### 【イワガキ生産状況】

| 生産回次 | 生産枚数                    | 備考        |
|------|-------------------------|-----------|
| 1回次  | 50,800枚（内軟材採苗器21,550枚）  |           |
| 2回次  | 6,500枚（全てホタテ殻採苗器）       | 浮遊幼生の斃死発生 |
| 3回次  | 18,450枚（全て軟材採苗器）        | 浮遊幼生の斃死発生 |
| 4回次  | 9,750枚（全てホタテ殻採苗器）       | 浮遊幼生の斃死発生 |
| 5回次  | 44,150枚（全てホタテ殻採苗器）      |           |
| 6回次  | 29,550枚（全てホタテ殻採苗器）      |           |
| 合計   | 159,200枚（内軟材採苗器40,000枚） |           |

### (3) その他の試験・研究業務

#### ① クロアワビ種苗中間育成試験

県内でクロアワビ種苗の放流要望が強いことから、昨年に引き続き遊休施設を使用し、紫外線殺菌海水を使用しない状態でクロアワビ種苗を放流サイズまで飼育し、疾病の発生状況及び高水温期の斃死状況を調査した。

今年度は、受け取り時のサイズが前年度より小さく、配合餌料に餌付いていない個体が多く、搬入直後から夏季の斃死が多かったため紫外線殺菌海水の必要性を検証できなかった。引き続き栽培漁業センターにおける中間育成の可能性を検証するため飼育試験を行うことを検討している。

#### 【クロアワビ種苗中間育成試験実施状況】

| 種苗入手先           | 種苗入手サイズ及び個数            | 中間育成期間                | 中間育成後のサイズ、個数及び歩留等                              | 試験結果  |
|-----------------|------------------------|-----------------------|--|---|
| 鹿島・島根栽培漁業振興センター | 平均殻長 8.4 mm<br>14,000個 | 6月8日～3月31日<br>297日間育成 | 平均殻長 33.1 mm<br>3,408個 24%<br>*海士町の地先に放流を実施した。 | 受け取り時の種苗が前年度より小型であり餌食いが悪く斃死が多かった。試験を継続し環境適性などを調査する。 |

## ② ヒオウギガイ種苗生産試験

隠岐地区を中心にヒオウギガイ種苗の生産要望が強いことから、栽培漁業センターにおける種苗生産の可能性を検証するため種苗生産試験を実施した。

試験は、イワガキ種苗生産施設と設備を利用し、イワガキ種苗生産とほぼ同様の技術により生産を行った結果、重大な問題は発生せず、養殖用種苗として使用可能な殻長 8 mm～13 mm以上の種苗約 6 万 個を生産し、量産化の可能性を確認した。今後、大量生産技術の確立や生産原価の低廉化などを目的に種苗生産試験を継続する必要がある。

### 【ヒオウギガイの種苗生産試験実施状況】

| 試験期間                  | 母貝数            | 採卵誘発方法             | 幼生飼育・採苗                              | 海面飼育                                |
|-----------------------|----------------|--------------------|--------------------------------------|-------------------------------------|
| 6月28日～11月28日<br>154日間 | ♂12個体<br>♀18個体 | 干出 + 加温・♀紫外線照射海水刺激 | 屋内1トン水槽使用<br>飼育期間 28日間<br>餌料 イワガキと同じ | 海面生簀に設置した網かごを使用、無給餌飼育<br>飼育期間 126日間 |

## (4) 施設の維持管理に関する業務

施設の機能を維持し、種苗生産業務に支障を及ぼさないよう、建物・設備及び外構等の性能及び状態を常時適切な状態になるよう維持管理を行った。

### 【施設の維持管理状況】

| 項目           | 内容  |
|--------------|---|
| 種苗生産施設       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・機器の定期点検、清掃等施設の日常管理を行なった。</li> <li>・県水産課に施設の老朽化の状況の報告を行った。</li> </ul>                                |
| 機器の保守点検      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・部品交換及び復旧点検等を行ない、維持管理を行った。</li> <li>・関係法令により、資格者を必要とする電気工作物、ボイラの保守管理業務等については、専門業者に再委託をした。</li> </ul> |
| 調査船、公用車の維持管理 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・日常点検、法定検査や部品交換等を行った。</li> </ul>   |

## 5 種苗生産・中間育成に係る課題等

### (1) 種苗生産について

| 魚種  | 課題      | 対策  |
|-----|---------|---|
| マダイ | 大量斃死の防止 | <p>過去2年間の斃死原因として水質の悪化とワムシからの細菌症の感染の可能性を考慮し、平成30年度は</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①水槽の換水率と清掃回数の増加</li> <li>②紫外線殺菌海水によるワムシの培養と洗浄</li> <li>③ワムシ回収ネットの目合いの拡大</li> <li>④生産開始時期を5月中旬から4月下旬に変更</li> </ol> <p>を実施した結果、大量斃死が発生しなかった。<br/>引き続き斃死対策を検討し、生産の安定を図る。</p> |

|      |                  |  |
|------|------------------|--|
| ヒラメ  | 無眼側黒化の低減対策       | 飼育密度の低減、飼育照度の引き下げなど生産技術の改良により、99%以上の割合で正常魚の生産が可能となった。<br>改善された技術を基に種苗生産マニュアルを改正し、今後の安定生産に活用する。 |
| イワガキ | 大型水槽による浮遊幼生の斃死対策 | 斃死原因を調査するため平成 30 年度は大型水槽と小型水槽の比較検討を行った。<br>今後、浮遊幼生の收容密度や飼育水質の管理、2種類以上の給餌を実施する等の改善を行い、生産の安定を図る。 |

(2) 中間育成について

| 魚 種    | 課 題                 | 対 策  |
|--------|---------------------|--|
| マダイ    | 生簀数や労力の削減など中間育成の効率化 | 1生簀当たりの種苗收容尾数を約 1.5 倍増加し、生簀の数や網替え回数の見直し、給餌作業量の軽減化を実施した。<br>改善後の歩留まりは 95%以上で良好であったが、改善前より種苗大きさに大小差が見られた。<br>今後、小型の種苗にも餌が行きわたるように大きさの異なる餌料を混合して給餌するなどの改善を行う。 |
| ヒラメ    | 種苗放流適地の選定           | ヒラメの放流を閉鎖的な漁港内で実施しており、放流場所の検討が必要。<br>島根県の関係機関と協力して、放流適地の選定を行う。   |
| 中間育成全般 | 施設の老朽化と中間育成従事者の高齢化  | 中間育成施設の更新及び中間育成従事者の育成が必要。  |